

仮面の形について説明する藤谷さん＝半田市御幸町で



### 神気迫る民俗仮面 半田で展示

豊田高専(豊田市)名誉教授の藤谷幸弘さん(76)＝岡崎市＝の収蔵品を展示する「神気迫る仮面たち」展が二十五日、半田市御幸町の松華堂ギャラリーで始まった。九月三日まで。

藤谷さんが建築学の研究のためヨーロッパを回った際に骨董市などで購入した民俗仮面五十六点を展示。民俗仮面は主にアフリカ大陸の国や地域の部族で儀式などに使われたもので、人の顔の形やサルの顔の形をしている。ほとんどが木製で、大きいものでは縦四十五センチ、横三十センチある。

幼い頃に地元の京都市で見た狂言師の仮面に興味を持ち、一九七〇年から収集するようになった。藤谷さんは「民俗仮面は部族の祈りの塊。じっと見ていると神様が宿っているとように思えてくる」と魅力を語った。

(辻晃平)